

企業紹介

個性豊かな「夢を包む」パッケージを創造



代表取締役 安藤 彰道
〒940-2316 長岡市鳥越2255
TEL(0258)46-8000 FAX(0258)46-8020

業 種：紙製容器製造
資 本 金：1,000万円
事業内容：ギフト用パッケージの企画製造

パッケージが違うだけで、商品の売れ方が全く変わる。紙箱などギフト用パッケージを製造するアンドウ紙器では、「パッケージは商品の顔であり、主張である」と、お客様の感性や商品のコンセプトに合わせたパッケージ作りを行う。基本は四角い紙箱の製造だが、なかには、開くと絵が飛び出すものや八角形のものなど、オリジナリティ溢れるパッケージも制作する。そうした同社の一味違ったパッケージは、様々な商品の訴求効果を高めている。

高級感のあるギフト用パッケージを製造

同社は、1927年に創業し、長岡市内の菓子店等の紙箱作りを開始。高度成長期、競合他社が段ボール箱印刷などの量産体制を強化していくなかで、同社は創業当時からの手作り感のある紙箱製造にこだわり、高級感や新鮮味のある紙箱を製造し続けてきた。今日、同社の売上7~8割を占める菓子箱は、丈夫かつ上品と評判が高く、県内の和洋菓子メーカーや米菓メーカーのギフト用として広く使用されている。同社の得意とする貼箱は、表面に化粧紙を貼るなど細かい作業が多く、人手を必要とする工程も多いが、ムダのない製造ラインを活かしてスピーディーかつ低コストに抑えている。また、内側の見えない材料には再生紙を使用するなど、環境にも配慮した製品作りを心がけている。

パッケージは商品の顔であり、主張である

同社では「パッケージは商品の顔であり、主張である」という安藤社長の経営哲学のもと、お客様の感性、商品のコンセプトに合わせたオーダーメイドのパッケージにも力を入れる。これまで製造したパッケージは、ランドセル型、円形や八角形、土偶型などバラエティーに富む。どれも最初にお客様から意見や要望を聞き、デザインしたもの。もちろん、こうした変形型は優れたデザイン性だけでなく、紙器に関する専門知識や技術も求められる。同社では、長年培ってきたノウハウで、素材の特性や機能性、総合的なデザインなどを考慮し、お客様のこだわりや要望を形にすることができる。



▲様々なギフト用パッケージを製造



▲開くと絵が飛び出る菓子箱



▲安藤社長

菓子箱だけで終わらない付加価値の高いパッケージを製造

同社がこうした創造力溢れる製品を作れるのは「仕事に対して労を厭わない」という社内風土が大きく影響している。「当社では、単に『ものを入れる』ためだけのパッケージではなく、商品の付加価値を高めるパッケージ作りを行っています。そのために社内みんなが創意工夫をし、協力し合う風潮を大切にしていきたい」と安藤社長は語る。